

旧劇団スカイフィッシュ 第九回公演

適切な距離



公演ガイドブック

はじめに

「もし自分がお芝居を観に行くとしたら？」というのを考えてみました。時間とお金を使って観に行くわけですから、観たあとで後悔はしたくありません。どの公演を観に行くかを決める時に、とても慎重になります。公演内容の書かれたチラシやホームページなどを見比べて決めます。そうとします。そのときに、「作品の内容についてもっと詳しく知れたらなあ。」と書いてしまいます。

そこで、作品の雰囲気がよく分かるように、ガイドブックを作ってみることにしました。

このガイドブックでは、台本となる「小説」の冒頭部分とイメージがつかみやすいよう写真を配置してみました。ここに書かれている「小説」が、3月にお芝居として上演されます。

読んでみて、上演されるお芝居のイメージを膨らませてもらえたらと思います。最後まで読んでみて、続きが気になった方は、劇団のホームページで続きを公開していますのでそちらをご覧ください。

このガイドブックを手にとった方が、一人でも多く劇場へ足を運んでくださることを期待しています。

旧劇団スカイフィッシュ代表・演出 小嶋一郎



適切な距離 松山賢史

「おーい。」

高橋からのどうでもいいメールの振動で目が覚めた。ただ一言「おーい。」とだけ書いてある。受信時刻が「17:14:12」と表示されている。

寝すぎだ。ため息が出る。今年も締めりの無い新年を迎えてしまった。初夢は少しも覚えていない。しぶしぶ起き上がって、腰をひねる。ばきばきと気持ちのいい音がした。

もう一度携帯を見る。着信を知らせるランプが赤く点滅している。未読メールが残り4件。不在着信2件。着信履歴を確認する。12:39に一回。13:12にもう一度、高橋からだった。

メールを見てみる。4件とも高橋からのものだ。また、ため息が出る。せつかくの新年を、追い立てられているようで、そしてそんな日に、私を思い浮かべてくれる人が、高橋しか居ないようで、やるせなくなる。少しだけ。

12:22 「初詣とか行く？」

11:56 「今日、予定空いてる？」



10:39 「ヤバイ！久々に積もったな！今日、何か予定ある…」

9:31 「あけおめ！去年は…」

長いメールは読む気がしない。どうせ最後まで読まなくても何が言いたいかわかるから構わない。暇なのだ。こいつは。窓の外を見てみると、確かに雪が積もっていた。5センチぐらい。昨日、眠る前に降り出して、まだパラパラと降っている。珍しいな。去年は一日も積もらなかったんじゃないだろうか。だからと言っ「ヤバイ」とは思わないが。

一応、メールに返信しようと新規作成ボタンを押す。

「今起きた。初詣に興味ありません。それでは。」

「明けておめでとう。いつまであけおめとか言ってるの？」

「ヤバイって何？」

書いては消して、結局面倒になって携帯を閉じた。別に言いたいことなんて無いのだ。メールしたら電話がかかってくるに違いない。そうなると、向こうの押し強さに負けて、私は初詣に行く事になる。結局は私も暇だから。去年もそうだった。わざわざ朝から出かけて、人混みにもまれて、願い事も無いのに賽銭を投げて、おみくじを引いたら凶だった。

居間に行く。母はもう起きていた。テレビを見ている。振袖を

来た女性レポーターが初詣の賑わいをレポートしていて、無数の参拝者が映し出されていた。何でこんなに楽しそうな顔なんだろうなあと感心する。テレビに写ってるからというわけでもなく、恋人といるからというわけでもなく、彼らは何となく楽しそうだ。何千人の人混みの中で、立ちっぱなしになっても、微笑みのムードが絶えない。

これが元旦でも何でも無い、例えば6月10日とかで、たまにはお参りでもしようかな。と数百万の人が同時に思った、一斉に近所の神社に立ち寄った結果、こんな大混雑に出くわしたとしたら、こんな楽しそうなムードにならないだろうか。怒号が飛び、けが人も出るだろう。元旦だから許せるのだ。一年の計があるから、とりあえず楽しみからスタートしたいんだろう。全く共感はお来ないけれど。

テーブルの上の新聞を手に取り、テレビ欄を見してみる。どこも同じような番組ばかり。リモコンで適当に変えてみる。やっぱりどこも同じような、生放送でわいわい騒いでる。母がちらっとこっちを見た。どれも一緒だろと思いつつも、始めのチャンネルに戻す。母はまたテレビの方を向く。行くものであって観るものではないのに、この人は何を思って観ているんだろうか。少なくとも、母の顔には楽しそうなムードは無かった。

テーブルの上に、二枚のハガキがあった。



一枚は半年前に行った歯科医から。年始の挨拶と、定期的な検診を受けて下さいとプリントされていた。もう一枚は、ヘタクソな字で宛名が書いてある。裏返して見ると、まず横向きに書かれた、「20才のわたしへ。」という文字が目飛び込んできた。懐かしい。小学生の時に私が書いた年賀状だ。確か、国語の時間だけに、未来への自分へ手紙を送るという授業で書かされた。当時、郵便局に年月日を指定して預けておくことが出来るというサービスが始まったのだ。すっかり忘れていた。10年後の自分宛だったはずだから、つまり10歳の頃、小学校5年生だったろうか。

昔から、こういう、自分なりのアイデアみたいなものを要求される授業が大嫌いだった。自分の好きな絵を描いてTシャツを作ろうだとか、自由研究発表だとか。家の中で一人、もくもくとするのなら、好きなのだ。研究でも絵でも。それを人前で見せるというのが大嫌いだ。批評されたり、誉められたり、どうせ人の意見なんか参考にするほど真剣じゃないのに、ああだこうだ言われると腹が立つてくる。まあ、私の場合、ほとんどは誰も何も言わないのだけれど。「この研究について何か質問、ある人？」とか「この絵のここがいい、ここが悪いを教えてくださいー！」と先生が明るく言っても誰も手を挙げない。それさうだろう。別に手先が器用でも無いし、発想が変わってるわけでも無い。得意な人のをこっそり真似して、だいぶグレードダウンしてるだけだから。あのシラケタムードがたまらなかつた。取り繕うように先生が質



問したり、その質問に全然答えられなかつたりとか、ろくな思い出は無い。

10年前の私は、10年後の自分へのメッセージに

「10年後のわたしへ、

10年後のわたしはまだ日記をかいていますか」

とだけ残していた。

寂しい限りだ。確か、他の人たちは、警察官になれていますかとか、野球選手だとか、立派な夢を期待していたはず。私は、微妙に趣旨を間違えてるし、しょうもない。

だけど、そういえば確かに当時、日記を付けていた。毎日毎日。休みも無く。別に全く波乱万丈の無い毎日だったはずなのに、一日に、大学ノート2ページ分くらい書いていた。書き上げた日記を数ヶ月経った後に読み返すのが好きだった。ああ、こんな事あったとか、全然覚えていないだとか、なんだかんだで楽しい。

日記の上でのみ、無味乾燥な毎日が生き生き見えていた気がした。10年前の私は、どんな期待があって、そんな事書いたんだろう。私に。

今読み返しても、あの頃の毎日は生き生きしてるんだろうかと、久しぶりに読み返したくなり、当時の日記帖を探してみることにした。



旧劇団スカイフィッシュ 第九回公演 「適切な距離」

脚本=松山賢史 演出=小嶋一郎

出演=井上竜由・真塩優・萩原宏紀・安武剛

舞台監督=堀田誠(CQ) 照明=根来直義(top.gear) 空間デザイン=小嶋一郎

宣伝写真・デザイン=イトウユウヤ

制作=スカイフィッシュ制作部・周川まゆみ 制作統括=大阪コミュニケーションデザイン事務所(OCD)

企画・製作=旧劇団スカイフィッシュ

関係の断絶した母子家庭。

ある日、娘は母に日記を盗み見られている事に気付く。

そして、娘も母の日記を盗み見る。

お互いが、日記を通して監視し合う中、断絶した関係に変化が生まれるのだが・・・。

肉親ゆえに愛憎する母娘関係を描いた、松山賢史1年振りの新作。

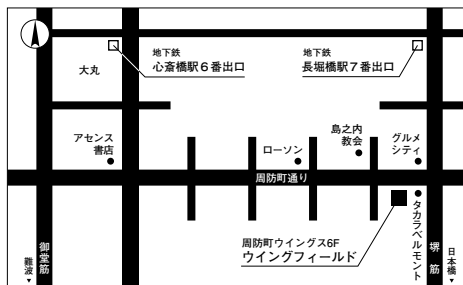
2008年 3月14日(金) 19:30

15日(土) 15:00 / 19:00

全3ステージ/日時指定・自由席/受付開始と開場は開演の30分前

ウイングフィールド

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F 06-6211-8427



◎大阪市内からのアクセス

地下鉄堺筋線「長堀橋」駅(7番出口)より→堺筋を南へ徒歩3分

◎京阪沿線のからのアクセス

京阪「北浜」駅から地下鉄堺筋線乗り換え→堺筋線「長堀橋」駅(7番出口)より

→堺筋を南へ徒歩3分

◎近鉄沿線からのアクセス

近鉄「日本橋」駅(2番出口)より→堺筋を北へ徒歩10分

◎梅田からのアクセス

地下鉄御堂筋線「梅田」駅→「心斎橋」駅(6番出口)より→東へ徒歩7分

→堺筋に出て南へ徒歩3分(駅から計10分)

チケット料金(全席自由)

前売=2000円 当日=2500円

劇団web・メール予約=2000円

チケット発売:2008年1月1日

チケット予約方法

◎メール予約

件名に「チケット予約」

本文に「お名前(フリガナ)」

「観劇希望日時」

「枚数」

以上を明記して、「sky_fish06@yahoo.co.jp」まで送信してください。折り返し確認のメールを差し上げます。その時点で予約完了となります。

◎劇団web予約

劇団webサイト上の「チケット予約フォーム」からご予約下さい。

劇団webサイト = <http://skyfish07.blog33.fc2.com/>

お問い合わせ

◎旧劇団スカイフィッシュ = sky_fish06@yahoo.co.jp

<http://skyfish07.blog33.fc2.com/>

◎ウイングフィールド = 06-6211-8427

info@wing-f.co.jp

<http://www.wing-f.co.jp/>

*なお、当日券のお問い合わせは旧劇団スカイフィッシュにEメールまたは劇団webサイトで確認いただけます。

旧劇団スカイフィッシュ

代表・演出を担当する小嶋一郎と脚本を担当する松山賢史を中心とした創作集団。

二人とも近畿大学文芸学部舞台芸術専攻の出身であり、2003年以降大阪を拠点に活動を続ける。「旧劇団」とは、現在は劇団ではないという意味であり、「集団のあり方」の模索を創作活動の出発点にしようという意思の表れでもある。05年「MESSAGE」を契機に、団体所属の作家・松山賢史の書いた「小説」を脚本化せずには台本として使用して舞台芸術作品をつくるようになる。現在、演劇公演の他に、創作環境を考察するフリーペーパー「鶴」を発行し、関西の劇場を中心に季刊で配布している。演劇という「制度」への懐疑を抱き続け、「集団のあり方」「創作過程」「情報発信の仕方」など、「新しいルール」を構築すべく活動している。主な作品として『彼岸』。同作で利賀演劇家コンクール2007に参加。